

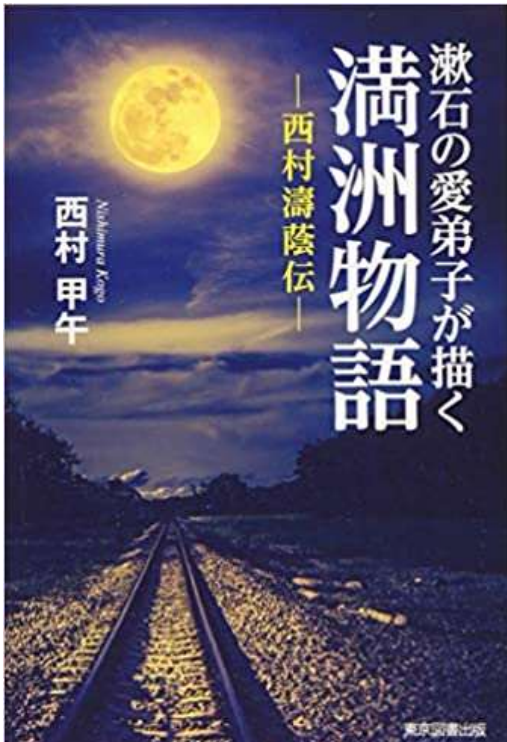
西村甲午さんの著書紹介

社友会会員の西村甲午さん（昭和51年入社 教修9期）が、ご自身の祖父（西村濤蔭氏）が夏目漱石の自宅に住み込みの内弟子として師事されていたとの事で、定年後3年間をかけて祖父の生涯を調べた本が、本年4月に市販本（定年後の自費出版は多くありますが、内容が素晴らしいので東京図書出版社の市販本として新聞にも広告が掲載され発売されました）として刊行され、只今書店にて発売中です（Amazonを始めインターネット書店でも発売中）。

ご興味のある方は大型書店等でご確認いただき、ご購入いただければと思います。
（税込 1,320 円）

169 ページの大変読みやすい本だと思います。

漱石の愛弟子が描く「満洲物語」 —西村濤蔭伝—



西村甲午 [にしむらこうご]

1954年東京都生まれ。1976年に東北大学経済学部卒業後、安田生命保険相互会社入社。個人保険の営業部門、事務管理部門を経て、2014年定年退職。定年退職を機に研究・執筆活動を開始。

漱石の指示で大連に渡った男、西村濤蔭は五族協和の王道楽土「満洲国」の建設に生涯をかけた。

目次

- 第1部 夏目漱石の弟子として
 - 第1章 小説家を目指して
 - 第2章 漱石との出会い
 - 第3章 書生になるまで
- 第2部 租借地大連での日々
 - 第1章 大連へ
 - 第2章 妹お梅さんのこと
 - 第3章 巖谷小波との関係
 - 第4章 大連にて
- 第3部 金子雪齋との出会い
 - 第1章 金子雪齋翁
 - 第2章 中野正剛とは
- 第4部 『大日』誌への投稿
 - 第1章 大日社
 - 第2章 『大日』誌での政党政治批判
 - 第3章 『大日』誌での外交政策批判
- 第5部 五族協和の王道楽土
 - 第1章 新満洲の諸相
 - 第2章 満洲物語

【読者からの感想】

- ・ 濤蔭氏の人柄とともに漱石のプライベートな人柄を知ることができました。
- ・ 満洲国や日中戦争について改めて知ることができました。
- ・ 先の戦争では、ただただ侵略のためでなく、人としての理想を求めて生きた方もいたのだとわかりました。
- ・ 調査の過程が描かれていて、定年後の過ごし方の参考になりました。